

漁連だより

2024

7・8

No.351



精霊流しの様子

CONTENTS/目次

株オークワ 九州・沖縄フェアを開催	P1
令和5年度 業務報告書の取りまとめ	P2
新組合長のご紹介	P3
バッテリーキャンペーン実施	P3
第70回定期総会及び第4回意見交流会が開催さる	P4
2024(第34)年度 全国漁青連通常総会	P5
長崎県まぐろ養殖協議会「第11回通常総会」の開催	P5

「第35回定期総会」及び「長崎県トラフグ資源管理漁業者協議会」の開催	P6
有明海へトラフグ種苗放流を実施	P7
西彼・橘湾地区で移動役員会を実施	P8
長崎県かん水魚類養殖協議会 令和6年度定期総会 開催	P9
募金ありがとうございます	P9
真珠養殖業の新たな課題に対する取組みについて (二)	P10

(株)オークワ 九州・沖縄フェアを開催

事業推進部

営業課

(株)オークワは和歌山県を中心に、東海地区から関西地区にかけて約150店舗を展開しているチェーンストアです。「九州・沖縄フェア」は毎年恒例のイベントとして、夏と冬の年2回開催されており、県内各地の鮮魚・養殖魚の他、各種加工品を販売しております。



鮮魚売り場の様子



販売の様子



まぐろの解体ショーの様子

今回のフェアでは、天候に恵まれず、主要魚種をはじめ、各鮮魚の確保に大変苦労しましたが、各事業所との連携もあり、無事フェアを開催する事が出来ました。

鮮魚については、「いさぎ」「ひらまさ」「まだい」等、色とりどりの魚が並べられ、丸体や切身の他、刺身や寿司など、様々な形態で販売され、売上は好調でした。

加工品、乾物品については、「あじフライ」や「あまだい」「いさぎ」等の開き物、「食べるいりこ」「煮干し」等の乾物、長崎杉蒲の「イ

カ入りカツ」「えびカツ」等のカツシリーズを展開し、フェアならではの商品として大変好評でした。また、今回は7店舗にて養殖まぐろの解体ショーが行われ実演販売の効果もあり、多くの来客者が購入されました。

今後の取組みとして、鮮魚をはじめ加工品においても消費者のニーズに応じた商品提案を行い、長崎県の魅力及び長崎県の水産物の強みを活かし、販売強化に繋がっていきます。

さる7月6日から7日において、(株)オークワにて九州・沖縄フェアが開催され県内各地の旬の鮮魚、加工品を中心に販売しました。

令和5年度

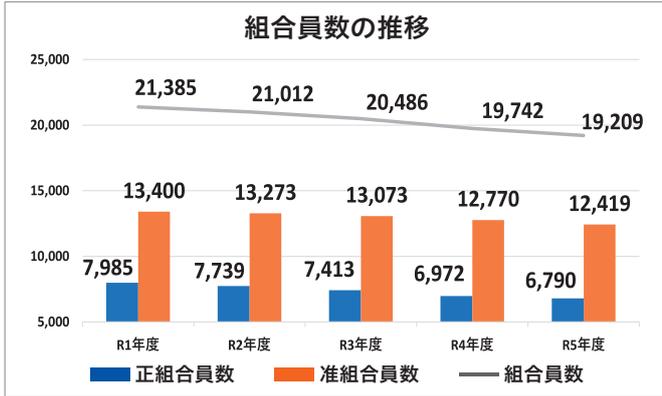
業務報告書の取りまとめ

総務指導部 指導課

長崎県下62組合のうち3月決算61組合の業務報告書を集計しましたのでご報告致します。

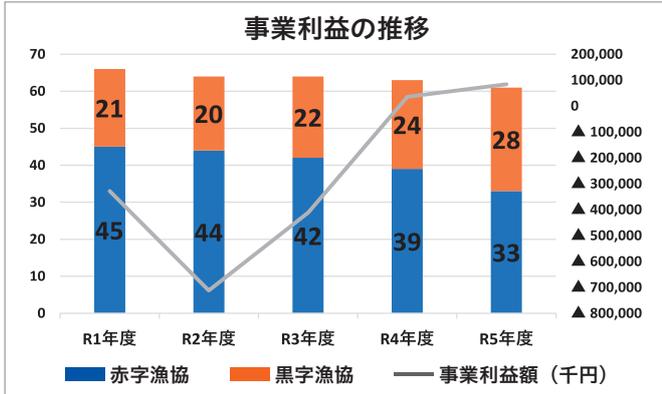
□組合員数

長崎県下61組合の正組合員数は6,790名、准組合員数は12,419名でした。過去5カ年の正組合員数の推移は、毎年4%前後の減少率を示しています。



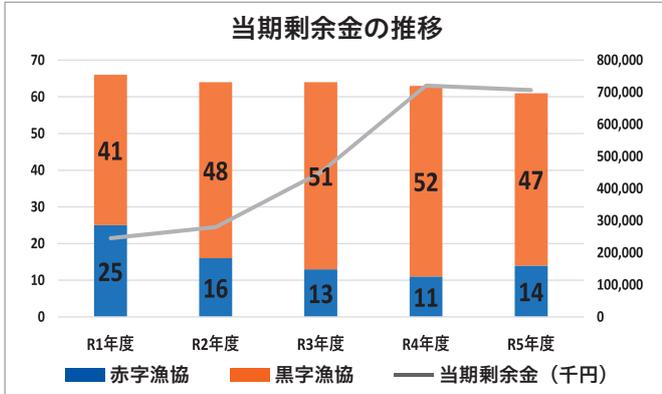
□事業利益

事業利益が黒字であった組合は61組合中28組合であり、赤字であった組合は33組合でした。事業利益の合計額はR2年度を境に増加しています。R5年度はR4年度と比べると黒字組合が4組合増加し、事業利益合計額も若干増加しています。



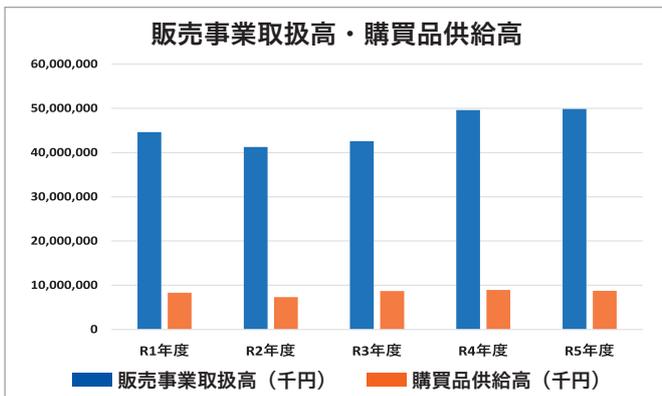
□当期剰余金

当期剰余金を計上した組合は61組合中47組合であり、赤字を計上した組合は14組合でした。当期剰余金の合計額は、R1年度からR4年度まで増加していたものの、R5年度は若干減少し、黒字の組合は5組合減少しています。



□販売・購買事業

漁協の基幹事業となる販売事業の取扱高は49,841百万円、組合員1人当たりの取扱高は2,573千円と過去5カ年で一番の取扱高となりました。また、購買事業の取扱高は8,756百万円でした。販売・購買事業ともにR2年度を境に落ち込んでいた取扱高が回復している傾向が見受けられます。



新組合長のご紹介

●長崎市たちばな漁業協同組合



鳥越 一男
代表理事組合長

●峰町東部漁業協同組合



大江 長泰
代表理事組合長

●西有家町漁業協同組合



多良 哲也
代表理事組合長

●新松浦漁業協同組合



田淵 輝明
代表理事組合長

●島原半島南部漁業協同組合



植木 一夫
代表理事組合長

●大島村漁業協同組合



山口 和幸
代表理事組合長

バッテリーキャンペーン実施

購販部 購買課

JFバッテリーの特徴

	電圧 (V)	外径寸法(約 mm) 箱高×幅×長さ	液入質量 (約 KG)
JF 130F51	12	210×180×502	32.9
JF 155G51	12	210×220×505	38.8
JF 210H52	12	216×276×518	57.4



付属端子を同梱
・海水等により腐食した端子の交換用
→保守費用の軽減

防爆栓仕様
・水素ガス発生による引火爆発を防止。

Contributing to the Future
THE FURUKAWA BATTERY CO., LTD.
Copyright ©2019 The Furukawa Battery Co., Ltd. All Rights Reserved.



日頃より皆様にご愛用頂いております「JFバッテリー」について、毎年実施しておりますキャンペーンを下記の期間にて実施致します。
近年、燃油の高騰や漁業資材、生活用品等の値上げが続いており、本課として微力ながらも漁業者の皆様に支援を行いますので、是非この機会にご利用下さい。

◎ キャンペーン期間 ◎
令和6年9月1日～
令和6年11月29日
◎ 対象商品 ◎
JFバッテリー三種
・ 130F51
・ 155G51
・ 210H52
キャンペーン価格につきましては、各組合購買窓口までお問合わせ下さい。今後も系統利用へのご理解とご協力の程宜しくお願いします。

第70回定期総会及び 第4回意見交流会が開催さる

長崎県漁協青壮年部連合会



吉田部長挨拶



牧島会長挨拶

○第70回定期総会
14時より開催した定期総会では、牧島会長の主催者挨拶、来賓より長崎県水産部吉田部長及び長崎県漁業協同組合連合会高平会長（代誌・河田部長）からの

さる7月19日、長崎県漁協会館にて第70回定期総会を開催しました。また、総会終了後には平成30年以来となる意見交流会を開催しました。



定期総会の様子

祝辞の後、議案に入りまして。議長には、新松浦漁協青年部の渡邊健斗氏が選任され、全議案とも原案通り承認されました。
【第1号議案】令和5年度活動報告及び収支予算決算承認の件
【第2号議案】令和6年度活動計画（案）及び収支予算（案）、令和6年度会費の賦課及び徴収の時期・方法の件
【第3号議案】その他の件

○第4回意見交流会
本交流会は、長崎県の協力を得て、青壮年部や水産業が抱える問題について、部員同士が自由にディスカッションを行う場として、平成27年度より開催しており、コロナ禍を経て平成30年以降の開催となりました。今回は「今後の水産業について」という広いテーマで討論し、部員を無作為に5グループに分け、討議・発表を行いました。また、部員以外にも系統団体や行政、長崎魚市(株)の職員、経済青年団体の役員等も参加し、様々な業種・立場から意見を出し合い、盛り上がりました。

各グループの発表では、現状の問題点を挙げた上で、「メディア媒体を使った漁業の魅力アピール」「長崎の魚のブランド化」「出荷先の模索」等、前向きな意見も多く出されました。最後に牧島会長より、「この交流会で出た意見を各青

壮年部で共有して、よりよい漁青連・水産業を目指していきたいでしょう」と締めくくりました。
今後はこの交流会で出た意見を取り入れながら、水産業が持つ魅力を積極的に発信し、青壮年部活動を盛り上げて参ります。



意見交流会（発表）の様子



意見交流会の様子

2024(第34)年度 全国漁青連通常総会

長崎県漁協青壮年部連合会



新役員の様子

さる6月26日、東京都中央区日本橋にあるAP日本橋にてJF全国漁青連通常総会が開催されました。

主催者としてJF全国漁青連川畑会長理事より挨拶が行われた後、来賓として水産庁増殖推進部坂部長、JF全漁連三浦常務理事、全国農協青年組織協議会 酒井会長による挨拶が行われ、大分県漁協青年部連合会 山田会長が議長に選出され議案審議に入りました。

顧問	川畑友和(鹿児島県)	監事	横江拓郎(滋賀県)	理事	八戸彰翼(青森県)	理事	袈裟丸彰蔵(佐賀県)	理事	牧野一誠(岡山県)	理事	勝元大成(大阪府)	理事	小林大介(静岡県)	理事	金城大勝(沖縄県)	副会長	竹内大生(石川県)	副会長	尾崎大太(北海道)	会長	阿部誠二(宮城県)
----	------------	----	-----------	----	-----------	----	------------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	----	-----------	-----	-----------	-----	-----------	----	-----------

右記の全議案について、原案通り承認されました。なお、第4号議案の役員改選において、総会終了後に互選が行われ、左記の通りとなりました。

- 【第1号議案】
2023(第33)年度事業報告及び収支決算の承認に関する件
- 【第2号議案】
2024(第34)年度事業計画及び収支予算の決定に関する件
- 【第3号議案】
2024(第34)年度会費の賦課並びに徴収方法に関する件
- 【第4号議案】
役員改選に関する件
- 【第5号議案】
その他に関する件

長崎県まぐろ養殖協議会「第11回通常総会」の開催

長崎県まぐろ養殖協議会



主催者挨拶を行う
小川会長

さる7月26日、長崎県漁協会館にて第11回通常総会が開催され、会員・賛助会員や行政、系統団体等、約50名が参加しました。

○第11回通常総会

通常総会では、小川会長の主催者挨拶、長崎県水産部吉田部長、長崎県漁業協同組合連合会田代専務理事からの祝辞の後、議案審議に入り、全議案とも原案通り承認されました。また総会終了後には賛助会員からのプレゼンテーション、(株)共冷・(株)仙台水産より養殖餌料や養殖まぐろ販売についての講演が行われました。

- 【第1号議案】令和5年度業務報告及び収支決算承認の件
- 【第2号議案】令和6年度活動計画(案)及び収支予算(案)、令和6年度会費の賦課及び徴収の時期・方法の件
- 【第3号議案】その他の件

「第35回定期総代会」及び 「長崎県トラフグ資源管理漁業者協議会」の開催

長崎県延縄漁業協議会

長崎県延縄漁業協議会は、フグ・アマ延縄漁業の操業安全と秩序維持、並びに資源の保護育成に努め、漁業の振興と経営の安定をはかることを目的に活動しています。

【第35回定期総代会】

さる7月17日に開催された第35回定期総代会では、左記の議案について協議され、全議案とも原案通り承認されました。

- 第1号議案…令和5年度事業報告及び収支決算承認の件
- 第2号議案…令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件
- 第3号議案…令和6年度会費の賦課及び徴収の時期・方法について
- 第4号議案…西日本延縄連合協議会（四県漁撈長会議）確認事項について
- 第5号議案…その他について



定期総代会の様子



開会の挨拶を行う後藤会長



長崎県総合水産試験場松村氏による講演

【長崎県トラフグ資源管理漁業者協議会】
トラフグ資源については、毎年実施している種苗放流の効果はみられるものの、依然として資源量は低位である為、回復に向け関係県で様々な取組が検討されています。
今回、開催された「長崎県トラフグ資源管理漁業者協議会」ではトラフグ資源管理への知識を深める為、長崎県総合水産試験場松村氏より「トラフグ漁獲成績報告書に基づくデータ解析と種苗放流効果について」と題して講演をいただきました。

有明海へトラフグ種苗放流を実施

長崎県延縄漁業協議会

さる6月25日に佐賀県白石町にて、トラフグ種苗（約70mm）を1万5千尾放流しました。

トラフグは、日本海・東シナ海・瀬戸内海系群と伊勢・三河湾系群の二系群存在し、長崎県で漁獲されるトラフグは前者にあたります。

トラフグの資源状態は依然として低位・減少傾向であるとの評価が出されており、九州・山口北西海域トラフグ広域資源管理方針に基づき下記の取組みを行っています。



放流されたトラフグ



放流されたトラフグ

(一) 漁獲努力量の削減措置

① 承認制・届出制の実施

承認制は総トン数5トン以上のトラフグはえ縄漁船とする。

届出制は総トン数5トン以下のトラフグはえ縄漁船とする。

(長崎県では承認隻数上限が95隻)

② 操業期間の制限

海域を5つに分け、海域及び漁港ごとに休漁期間を設定する。

③ 小型魚の再放流

全長30cm以下のトラフグを採捕した場合、再放流する。

(二) 資源の積極的培養措置

国や関係県、九州海域栽培漁業推進協

議会が連携・協力し、適地に適正サイズの健全種苗放流を推進する。

(三) 漁場環境保全措置

水産資源の保全と漁場環境の改善による海底耕耘や海底清掃等を実施する。

今回の放流は、(二)「資源の積極的培養措置」にあたります。

近年、佐賀県白石町で放流を行っておりますが、長崎県で放流するよりも当地区で放流した方がより効果が高いと調査結果が出ております。

異常気象による海況の変化が取り沙汰されておりますが、放流したトラフグが大きく戻って戻ることと共に資源回復を願う現場を後にしました。

西彼・橘湾地区で移動役員会を実施

長崎県漁協専務参事会



橘湾東部漁協でのウニ養殖



長崎魚市（株）との情報交換



長崎魚市場での視察

【橘湾東部漁協】
橘湾東部漁協では、地区内で廃棄されるキャベツなどの農産物や流れ藻を、アカウニの飼料として活用し、養殖の採算性を高めるための技術開発に取組んでいます。夏の高温にも耐え、順調に育成し、販売することができれば特別な設備や高額な費用は不要なため、小規模漁業者でも取組める漁業として、組合員に紹

さる8月5日から6日にかけて、西彼・橘湾地区において移動役員会を実施しました。
長崎県漁協専務参事会では、年に一度、県内各地区の専務参事会との交流を図るため移動役員会を実施しており、今年度は西彼・橘湾地区で開催しました。

【長崎魚市場】
長崎魚市（株）との情報交換を行い、建設整備が進む高度衛生管理型市場の視察を行いました。長崎魚市（株）との情報交換では、昨今の水揚げ状況や中国の輸入規制による影響、鮮魚の集荷にかかる流通対策等の意見交換が行われました。

介していききたいとのことでした。また6月に橘湾東部漁協では、養殖魚が大きな赤潮被害を受けましたが、アカウニはほとんど影響を受けませんでした。このことから、魚類養殖とアカウニ養殖を組み合わせることで、赤潮などの自然災害リスクを分散させ、安定した収益を期待されるとのことでした。
その他、離岸堤や養殖筏を活用した藻場造成への取組みについて説明を受けました。

【長崎市新三重漁協】
長崎市新三重漁協の活魚センターでは、活魚の水揚げ設備の活用方法や養殖魚の赤潮被害、海水温の高温への懸念といった内容について意見交換を行いました。
本会では、引き続き、各地区との連携を密に、漁協運営の健全化に向けた情報交換に積極的に取組んでいくほか、職員の人材育成や意識改革のための活動を展開してまいります。

市場の視察では、衛生管理の一環として、着帽、靴の消毒、手洗いをし、入場し、県庁水産加工流通課より、鳥類のフン害防止対策や清掃方法等の取組みについて説明を受けました。

長崎県かん水魚類養殖協議会 令和6年度定期総代会 開催

長崎県かん水魚類養殖協議会



定期総代会の様子

当協議会は、適正養殖業者認定制度を活用し、長崎県産養殖魚の安全・安心を発信するとともに、生産基盤体制の整備により構築された養殖技術の継承と魚類養殖の経営安定を図ることを目的に事業を推進しています。今回の定期総代会では左記について協議され承認されました。

- (一) 令和5年度業務報告及び収支決算承認の件
- (二) 令和6年度事業計画及び収支予算(案)承認の件
- (三) 役員交代に伴う新役員選任の件
- (四) モジャコ採捕状況について
- (五) 赤潮対策ガイドラインについて
- (六) その他

第3号議案では、この6月に漁協の総会において組合長を退任された新松浦漁協の渡邊副会長に代わり、平戸市漁協の山中組合長が副会長に推薦され、承認されました。

第5号議案では、長崎県水産部水産加工流通課と長崎県総合水産試験場より、昨年橋湾で赤潮の被害があったことを受け、ガイドラインを作成しており、その内容と赤潮発生のメカニズムについて説明がありました。

また、今年も昨年同様に赤潮が発生し、その被害状況の報告と赤潮防除剤の在庫状況について協議を行いました。総代より剰余金の一部を赤潮対策として防除剤の購入費用に充て、会員に配布するのどうか、との提案がありました。全会員へ配布すると少量となることから昨年同様、国に対する陳情の費用に活用した方が良いとの意見が大半となり、被害状況等を訴えていくこととなりました。

特に赤潮被害が顕著であった長崎県・熊本県・鹿児島県においては甚大な被害を受けた養殖業者の救済と今後も生産を継続できるよう3県の知事が水産庁等に要望書を提出しており、本協議会としても全海水を通じて要望書を提出いたしました。

募金ありがとうございます

(公財) 漁船海難遺児育英会

(公財) 漁船海難遺児育英会は、漁船の海難事故(転覆・衝突等)や海中転落等の事故により、親を亡くされた遺児の経済的・精神的援助を目的に設立され、幼児から小中高生・大学生に学資事業を行っています。

しかし、教育費の高騰により資金的にはまだ十分とはいえませんので、今後とも皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。

7月には次の方々からご寄付をいただきましたのでここに厚くお礼申し上げますとともに、紙上にお名前を掲載させていただきます。(敬称略)

【団体】

▼上五島町漁業協同組合

真珠養殖業の新たな課題に 対する取組みについて(二)

長崎県総合水産試験場
種苗生産技術開発センター 介藻類科

はじめに

長崎県における真珠の生産量は全国1位（令和4年農林水産統計）で、真珠養殖業は本県の基幹産業の一つに挙げられます。また、生産された真珠は、入札会や品評会で非常に高い評価を受けています（図1）。



図1 最高品質の真珠(※)
(※) 真珠品質の要素である、大きさ、形状、色彩（実体色）、照り（干渉色）、キズ、巻き（真珠層の厚さ）の全てが優れた真珠。

ところが、本誌332号（令和4年12月）で紹介しましたように、令和元年に本県を含む全国各地の主要な真珠養殖海域において、春季から秋季の期間に、真珠をつくるアコヤガイ当歳

貝（以下、稚貝と称す）の大量へい死が発生し、大きな問題となりました。本現象はその後も継続してみられ、国と関係県が連携し、本現象の実態把握と原因究明に取組み、令和4年に（国研）水産研究・教育機構 水産技術研究所と愛媛県の研究により、本現象はウイルスによる感染症と判明しました。一方、対策については、実用レベルの技術開発が喫緊の課題となっております。

そこで、総合水産試験場では、令和5年から稚貝のへい死を軽減するための技術開発に取組み、若干の知見が得られましたので紹介します。

一・早期採卵及び種苗生産試験

これまでの調査で、養殖業者からの情報によると、本現象によるへい死は、小型の稚貝に多く、大型の稚貝に少ない傾向がみられました。そのため、大量へい死の軽減対策として、毎年春季に生産する養殖種苗（稚貝）の大型化が望まれています。そこで、種苗生産機関では、従来の3月採卵による種苗生産を1月採卵に早期の取組みを試みています。

しかし、アコヤガイの成熟期は本来6〜10月であり、これまでの3月採卵より早期となる1月採卵では、種苗の生産が安定しないことが問題となっています。そこで、稚貝の安定生産を目的に、まず、種苗生産用親貝の成熟を促進するために必要な養成飼育期間について調べました。

試験は、成熟が進んでいる雌雄個体を選別して、水温約23℃（県内の主要な養殖海域の6月平均水温）で加温飼育を行い、アコヤガイの成熟が進行する13℃以上の積算水温（午前10時の飼育水温から13を引き、その差を毎日積算した数値）が0、150、200、230、250及び270℃時に採卵を行いました。結果を表1（次ページ）に示します。採卵数は積算水温が高くなるに従い増加し、受精率とふ化率はいずれも230℃以上で95%以上の高水準に達しました。次に、実用レベルの1月採卵による早期種苗生産を目的として、真珠組合と連携し、親貝の養成飼育に13℃以上の積算水温を用いた種苗生産試験を行いました。

試験は、12月から開始し、成熟が進んでいる親貝（雌雄各30個体）を水温約23℃で加温飼育を行い、13℃以上の積算水温が230、250及び270℃時に採卵し、受精率とふ化率を測定しました。続いて、生産した浮遊幼生を各2千万個体用いて稚貝の生産試験を行いました。結果を表2（次ページ）に示します。令和5年及び6年の1月採卵の受精率とふ化率は、全ての積算水温で90%以上と高く、生産した稚貝の採苗率（飼育開始時の浮遊幼生数に対する着底稚貝数の割合）は10〜11%と従来の5〜10%と同程度でした。以上の結果から、成熟が進んだ個体を親貝として選別し、12月から水温約23℃で加温飼育を行い、13℃以上の積算水温が230〜270℃となる1月に早期採卵が可能となり、実用レベ

ルの稚貝数（採苗率）が生産できることが分かりました。

表2 実用レベルでの採卵及び種苗生産の結果

採卵月	13°C以上の積算水温(°C)	受精率(%)	ふ化率(%)	稚貝の採苗率(%)	
R 5	1月	230	99	92	10
		250	98	94	11
		270	99	93	10
R 6	1月	230	98	92	11
		250	99	91	10
		270	98	91	11

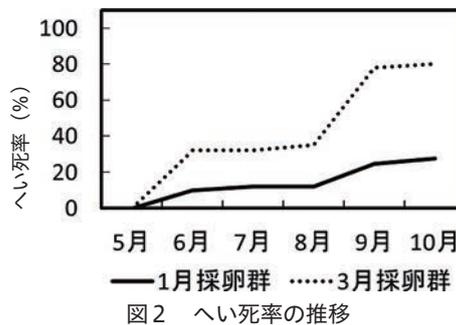
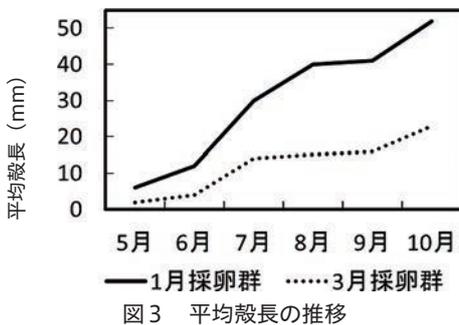
表1 13°C以上積算水温と採卵の結果

13°C以上の積算水温(°C)	内臓部1gあたりの卵数(万粒)	受精率(%)	ふ化率(%)
0	24	10	0
150	47	69	30
200	94	85	74
230	109	99	98
250	97	97	96
270	108	97	95

二. 早期採卵稚貝の飼育試験

続いて、令和5年1月及び3月採卵で得られた稚貝（以下、1月採卵群及び3月採卵群と略す）を用いた飼育試験を令和5年5〜10月に西市西海町地先で行い、両群のへい死亡率と殻長の推移を調べました。

5〜10月のへい死亡率の推移を図2に示します。へい死亡率は、各群で5〜6月と8〜9月の期間に高くなり、この期間のへい死亡率は、1月採卵群が3月採卵群と比べていずれも低い値となりました。さらに、試験終了時の10月のへい死亡率は、1月及び3月採卵群で28%及び80%となり、へい死亡率は、1月採卵群が3月採卵群の約3分の1と明らかな差



がみられました。

次に、平均殻長の推移を図3に示します。平均殻長は、両群ともへい死亡率が高かった5〜6月と8〜9月に鈍化したものの、1月採卵群は3月採卵群と比較して、終始大きく推移しました。試験開始時と終了時の平均殻長は、1月採卵群及び3月採卵群で6〜52mm及び2〜23mmとなり、へい死がみられた6月と9月における1月採卵群の平均殻長は3月採卵群と比べて、6月に3倍、9月に2.6倍もの成長差が生じました。

また、へい死が多くみられた9月に感染症の検査を行ったところ、各群ともウイルス遺伝子が検出されました。

これらの結果から、1月及び3月採卵群はウイルスに感染しますが、養殖業者からの情報と同様に、殻長が大きい1月採卵群が3月採卵群よりへい死亡率が低く、早期採卵の有効性が確認されました。

おわりに

今後も本県の真珠養殖業の振興を図るため、さらなる課題の解決に向け研究を進めるとともに、開発した技術については、これまでと同様に、養殖業者への普及や種苗生産機関への技術移転に努めてまいりますので、皆様のご協力をいただけますよう、よろしくお願い致します。

(担当 岩永俊介)

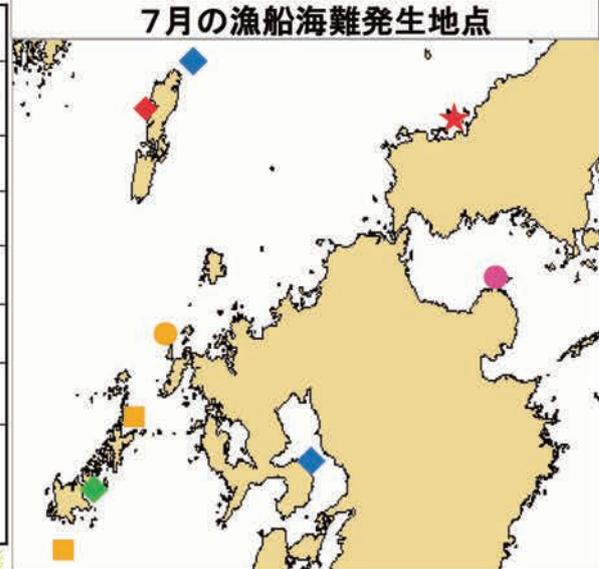
漁船海難月報

令和6年8月号 第七管区海上保安本部
第249号 交通部安全対策課 発行

令和6年7月発生
七管内漁船海難 計9隻

令和6年7月末現在 累計37隻(前年同47隻)
漁船海難発生隻数は前年に比べ **10隻減少**

漁船海難隻数 (速報値)	県別内訳	
	7月	令和6年累計
乗揚 ● 1	山口県 1	2(6)
火災 ● 1	福岡県 0	5(8)
衝突 ★ 1	佐賀県 0	3(1)
運航不能 (燃料欠乏) ◆ 1	長崎県 7	22(27)
運航不能 (推進機障害) ■ 2	大分県 1	5(5)
運航不能 (無人漂流) ◆ 1	合計	9隻 37隻(47隻)
運航不能 (有人漂流) ◆ 2		(0は昨年同月)
合計 9隻(昨年16隻) 死亡、行方不明者: 0名		



累計死亡・行方不明者数 7名(令和6年7月末日現在)

乗揚事故増加中！

昨年1年間で発生した漁船の乗揚事故は8隻でしたが、今年はずでに6隻と徐々に増加し、去年の乗揚事故の発生数に迫ってきています。人命と船を守るためにも、次のことを徹底しましょう。



・見張りを徹底し、早めの回避動作！

浅瀬や養殖いかだ等早期発見するためにも、見張りを徹底しましょう

・居眠り運転の禁止！

航行中眠気を感じたら、体を動かしてみる、換気を行う等対策をしましょう。

・自動操舵の適切な使用！

自動操舵使用中であっても常時適切な見張りを徹底しましょう。

貝殻
リサイクル魚礁



JFシェルナース



魚礁
(6.0型)



イサキ(対馬市)



ヒラマサ(西海市)



メバル(佐世保市)



イセエビ(新上五島町)



マダイ(対馬市)



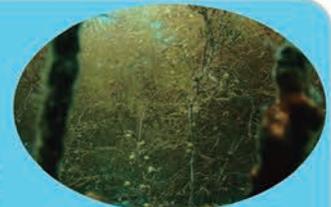
マアジ(南島原市)

保護礁
(プラス1.0型)



漁業者による
種苗の準備

取り付けた海藻は
順調に
生長しています!



設置10年以上経過
ホンダワラ類(長崎市)



2カ月後(長崎市)



1年2カ月後(対馬市)



1年5カ月後(平戸市)

漁師の考えた小型ブロック

貝藻くん



60cm×55cm×45cm、重量60kg

長崎県内で1,156基(全国約12,573基)
ご採用いただいております(2013~2024.4.1現在)



クロメ生育状況



下の隙間に隠れるクエ

お問合せ先 JF長崎漁連 購販部 購買課 TEL 095-829-2420

開発・製造 海洋建設株式会社



JF
JFグループ

着けよう、
あなたが家族のことを
思うなら。

めざせ！
海難事故

自分の命は自分で守る！
わずらわしさと窮屈さから解放！
ベスト感覚で着れる
ファッションなライフジャケット
常時着用型救命胴衣(自動膨張式)

膨張時

反射リフレクター
エア-吹入補充バルブ
ホイッスル
炭酸ガスボンベ
手動レバー

お問い合わせは、長崎県漁連 購買課まで TEL 095-829-2418~2420

「ギョレンオイル大漁」 発売から 50 年



「ギョレンオイル大漁」は、漁船で使用される機械とその使用条件を考慮して定めた規格に合わせて開発した、漁船のためのエンジンオイルです。

ギョレンオイル **大漁スーパー**
中・小型漁船の高速エンジン用 (SAE30、40、15W-40)

大漁シリーズ **大漁ロイヤル**
大・中型漁船の中・低速エンジンオイル (SAE30、40)

大漁LL
大・中型漁船の長期航海用 (30、40)
小型高出力エンジン用のロングライフオイル (15W-40)

大漁ハイドロスーパー
耐荷重性に優れた漁船用油圧作動油 (ISO VG32、46)

大漁ベストクール
陸上冷凍装置から遠洋漁業の超低温冷凍装置まで (ISO VG32、46)

漁協は、JFグループへ。

JFブランド商品

“ギョレンオイル大漁シリーズ”

漁船用エンジンのための最高級オイル。

〈エンジンオイル〉

- 大漁スーパー
- 大漁ロイヤル
- 大漁LL

〈油圧作動オイル〉

- 大漁ハイドロスーパー

〈冷凍機オイル〉

- 大漁ベストクール



海には、JFマークの商品を。



問い合わせ先 JF全漁連 購買事業部 石油第2課 TEL 03-6222-1323
問い合わせ先 JF長崎漁連 購買課 TEL 095-829-2419



発行/長崎県漁業協同組合連合会
〒850-8686 長崎市五島町2番27号 TEL095-829-2413
年間購読料 2,000円 (会員の購読料は会費に含む)

長崎県漁連 WEBサイトアドレス
<http://www.nsgyoren.jf-net.ne.jp/>

